「阿武町コミュニティ・スクールを活かした取組　～地域とともにある学校づくりをめざして～」

防府市立華城小学校　教諭　山本　直

１　概要と実態

山口県は、コミュニティ・スクールを核とし、地域協育ネットの仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを見守り支援する「やまぐち型地域連携教育」の推進に取り組んでいる。県内の公立小中高特別支援学校のコミュニティ・スクール導入率は１００％であり、人づくりと地域づくりの好循環の創出が進んでいる。ここでは、前職阿武町教育委員会社会教育主事として地域と共に取り組んでいる国際教育の実践を紹介する。

２　実践

（１）公民館事業としての「婦人会英会話教室」を中学校で

婦人会英会話教室の準備をしている時に、中学校の校長先生から「うちの中学校をぜひ使って、英会話教室をしてください。」「終了後は、子どもたちの学習の様子を見てください。」と声をかけて頂いた。本当にありがたいことで、早速、阿武中学校で実施することにした。コミュニティ・スクールの機能の１つ「地域貢献」では、「公民館の講座の一部を学校で行う」という事例があり、阿武町でも実現することになった。

公民館事業を中学校で

また、英会話終了後は、授業を見学させて頂いたり、校内を見学させて頂いたりした。参加者の感想に「生徒が勉強を頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思った」「我が子が卒業して以来、十数年ぶりに中学校に来た」等があった。また、阿武中学校は、新しい校舎になって日が浅いということもあり、婦人会の方の中には「新しい校舎に初めて入った」という感想もあった。

授業参観

（２）公民館事業としての「国際教育」の実践

阿武町に社会教育主事として赴任した時から、様々な場所に出向いて、町民の方に少しでも顔と名前を覚えて頂くようにした。その中で「国際教育に関わる話をさせて頂く機会があれば、ぜひお願いします。」と少しずつ宣伝をしていた。その結果「アラブの話」をする時間をもつことができた。講座終了後の感想の中で、「初めて知ることが多かったです」「貴重な物を見せて頂きありがとうございました」「日頃の生活で聞くことがない話ばかりだったので楽しかったです」と、嬉しい感想をたくさん頂いた。地域の方の知的好奇心の高さに驚くとともに、地域の中での「国際教育」の必要を強く感じた。

「宇田郷寿齢大学」でのアラブの話

（３）阿武町広報番組の「あぶｎｇｌｉｓｈ」の制作

「阿武町広報番組の中で英会話のコーナーを作ってみたい」と地元のケーブルテレビに相談をした。すると、年度末の番組再編の結果、取り入れて頂くことになった。

オープニング画面

英会話コーナーを提案したのは、①阿武町広報番組で放送することにより英会話や国際教育に興味を持ってもらえる、②婦人会の英会話教室に来れない方も外国語に触れることができる、という大きな理由があった。またケーブルテレビ側の提案で「『阿武町の方言』を活用したものにすると良いですね」という話を頂き、あわせて取り組むことにした。

年間を通して取り組むということで、時期的なものを意識して番組作りをするようにした。４月の放送では「はじめまして」というテーマにした。「新入社員が会社に着任をした。職場に外国の人がいた。そんなときに、どんな挨拶をしたらよいか？」ということで話を展開した。

今回のテーマ

分かりやすく表示する

特に気を付けたことは、本当に使う可能性がある英語を使うようにした。また、必ず繰り返しの場面を作って、視聴者が声を出してみたくなるような番組構成にした。

必ず復習の場面を取り入れる

＜視聴者の反応＞

○「分かりやすくて、見ていておもしろかった。」

○「知っている人が出ているので、楽しく見ることができた。」

○「次回の放送が楽しみです。」

○「実際に使ってみたいです。」

初回の放送後の地域の方の反応は、まずまずだった。

３　成果と課題

コミュニティ・スクールには良い機能がたくさんあるので今後も活かしていきたい。「婦人会英会話教室」では小中学生と関わる場面をつくることも考えてみたい。阿武町は人口約３，４００人の町で４６％が６５歳以上である。高齢者の「学びの場」がさらに重要になってくる。「知的好奇心」をもっている人は高齢者世代の方が多いかもしれない。しっかりと対応出来るような「阿武町コミュニティ・スクール」であり、「阿武町の社会教育」でありたい。今後も支援を続けていきたいと思う。